

# RACE REPORT



## Round.03 SUZUKA

### 第3戦 鈴鹿サーキット

2022年4月23日(土)

予選

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 坪井翔

予選：7番手

#39 阪口晴南

予選：20番手

4月9～10日に静岡県富士スピードウェイで開催された第1戦／第2戦からわずか2週間。2022年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、舞台を三重県の鈴鹿サーキットに移し第3戦を迎えた。

世界屈指のドライバーズサーキットで、坪井翔、阪口晴南

のふたりのドライバーにとっても気合が入るコースのひとつ。第1戦／第2戦と今回の第3戦の間に SUPER GT の開催もあり、チーム、ドライバーともに非常に多忙なスケジュールのなかではあったが、富士での不調を打開すべく、鈴鹿サーキットへ乗り込んだ。

## PRACTICE フリー走行

4月23日(土) 09:50～11:20 天候：晴れ 路面：ドライ  
ベストタイム #38 坪井翔 1'38.061 / #39 阪口晴南 1'39.922

富士での第1戦／第2戦と異なり、今回の第3戦は2021年までと同様に土曜日にフリー走行と公式予選、日曜日にフリー走行と決勝が行われるスケジュール。迎えた4月23日(土)は、春らしい暖かな陽気のもと、午前9時50分からフリー走行がスタートした。

すでに鈴鹿では、3月7～8日に行われた公式テストでチームは2日間の走行を重ねていたが、テストでは初日、2日目ともに坪井がトップタイムをマーク。非常に大きな手ごたえを得ていた。ただ、その3月のテストとは異なるのが、気温が大幅に上がっていること、そして今回併催となる二輪JSB1000の走行があることだ。これによるコンディションの変化にどう対応していくかが要求された。

気温20度、路面温度27度というコンディションのなかで迎えたフリー走行では、坪井がピットアウト後連続周回を開始。阪口は一度ピットに戻り、その後ラップを重ねていきまずはワンアタック。坪井は1分38秒453、阪口は1分

39秒976をマークした。

その後、赤旗中断がないままセッションは進んでいき、坪井は公式テストでの感触に近づけつつセットアップを進め、阪口は不調を脱すべくさまざまなトライを行い、残り3～4分というタイミングで坪井、阪口ともにピットアウト。チェッカーに向けアタックシミュレーションを行っていく。

ここで坪井は1分38秒061というベストタイムをマークし7番手につける。一方の阪口だがタイムが伸び悩み、1分39秒022というベストタイムで21番手で終えた。富士から続く不調に、阪口は頭を悩ませることになった。





## QUALIFY 公式予選

4月23日(土) 15:10~15:52 天候:晴れ 路面:ドライ  
ベストタイム #38 坪井翔 1'36.910 (Q2) / #39 阪口晴南 1'37.924 (Q1)

第1戦/第2戦富士では「レースウィークまでにバランスが大きく変わってしまった」という坪井だが、この第3戦鈴鹿では「少しバランスは変わっていますが、公式テストのときのようなフィーリングで走れている」と好感触を得ており、「今回の予選は楽しみですね」と期待をもたせるコメントを残していた。一方の阪口は「富士とは異なるところを注目していたりしますが、それが今のところ実っていない」と苦しみながら予選を迎えることになった。

午前のフリー走行の後、スーパーフォーミュラ・ライツの予選、ひさびさにドライバーたちもピット前に立ったピットウォーク、さらに今回併催となっている二輪JSB1000の決勝レース1を経て、午後3時10分からスーパーフォーミュラの公式予選がスタートした。今回、Q1のA組からは坪井が出走した。

薄曇りでやや風があるなか、気温24度、路面温度31度というコンディションのもと、第1戦同様、ウォームアップ

に手ごたえがあった坪井は、ややタイミングをずらし残り7分でピットアウト。一度ピットに戻った後、残り3分のタイミングを狙い再度コースイン。タイヤをウォームアップさせアタックに入っていた。3周目、セクター2、3と最速タイムをマークしてきた坪井は、1分36秒944を記録。2番手でQ2進出を果たした。

続いて午後3時25分にスタートしたQ1のB組に出走したのは阪口。コースオープンとともに一度ピットアウトすると、坪井同様一度ピットイン。残り5分で再度コースインし、2週のウォームアップを使ってアタックに入っていた。ただ、フリー走行での苦し

さはまだ続き、1分37秒924と午前中からタイムを上げたものの、結果は10番手。Q1で予選を終えてしまった。

Q1の後、午後3時45分からスタートしたQ2。坪井は残り3分までピットでステイアウトし、コースインした後しっかりとタイヤを温めアタックラップに入っていく。

直前のQ1でも好調であったことから、ポールポジション獲得への自信をもってアタックしていった坪井は、セクター3で最速タイムを記録しノーミスのアタックを展開する。ただライバルたちのタイムの上げ幅が大きく、チェッカー時点での結果は5番手というものに。さらにその後2台がタイムを伸ばし、最終的に坪井の予選順位は7番手となった。

午前のフィーリングが良かっただけに、坪井にとっては悔しい結果に。最終的に、予選での妨害行為によって#18 国本雄資が3グリッドダウンとなることから、P.MU/CERUMO・INGINGは坪井が6番手、阪口が20番手から決勝レースを戦うことになった。





# COMMENTS

ドライバー／監督コメント



## 38 坪井 翔 SHO TSUBOI

「午前のフリー走行、予選Q1の感触も良かったのでポールポジションを狙えるかな、とQ2に臨んでいきました。Q2でもフィーリングは悪くありませんでしたが、まわりがQ2で速くなりこの順位になってしまいました。ちょっと悔しいですね。失敗したわけでもないですし手ごたえも良かったので、なおさらショックが大きいです。富士での第1戦／第2戦に続きまた難しい順位からのスタートとなってしまいました。7番手ということで決勝レースのペース次第では表彰台はまだ狙える位置だと思っています。富士のスタートではクラッチのトラブルなどもありましたが、そういうことがないようにしたいのと、第1戦でのペースの良さを再現したいですね」



## 39 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「まわりのタイムの上がり代をQ1のA組で見ることができましたし、過去にもこのタイムで走ったこともあるので、それを意識をもってアタックしていきましたが、午前のフリー走行のときからセクター1がやはり厳しく、フィーリングどおりの結果となってしまいました。予選に向けてチームの皆さんが頑張ってくれて走りやすい状態にはしてもらえたとは思いますが、そもそもの速度域がまわりより劣っているので、一刻も早く取り戻さないといけませんね。鈴鹿サーキットでのレースはいつもいろいろなことがありますので、なんとかそれをかいくぐって決勝では順位を上げていきたいですし、ポイント獲得を目指して頑張っていきたいと思っています」



## 立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「坪井選手は午前中から調子も良く、予選ではQ1を2番手で突破することができましたが、Q2では少し伸びが足りませんでしたね。Q2のコンディションの変化などに対する詰めが甘かったのかもしれませんが、本人がいちばん悔しがっていますが、残念な位置になりました。調子自体は悪くないので、明日挽回できるようにしたいですね。阪口選手については、今年に入ってからずっと調子が良くなく、何をしても苦しい状態が続いてしまっています。セットアップ等も含め、根本的な解決に至っていないので、状況は深刻です。坪井選手のセットアップを採り入れたりもしていますが、明日に向けて頑張ってなんとか状況を打開していきたいと思っています」



# RACE REPORT

## RESULT リザルト

### 第3戦鈴鹿 予選結果

Pos.	No.	Driver	Team	Engine	Q1	Q2
1	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	HONDA/M-TEC HR-417E	1'36.957	1'36.352
2	3	山下健太	KONDO RACING	TOYOTA/TRD 01F	1'37.000	1'36.427
3	4	S. フェネストラズ	KONDO RACING	TOYOTA/TRD 01F	1'36.914	1'36.535
4	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	TOYOTA/TRD 01F	1'37.060	1'36.557
5	18*	国本雄資	KCMG	TOYOTA/TRD 01F	1'37.329	1'36.626
6	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.502	1'36.675
7	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	TOYOTA/TRD 01F	1'36.944	1'36.910
8	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.420	1'37.000
9	50	松下信治	B-Max Racing Team	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.308	1'37.037
10	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.352	1'37.113
11	7	小林可夢偉	KCMG	TOYOTA/TRD 01F	1'37.207	1'37.123
12	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	TOYOTA/TRD 01F	1'37.536	1'37.172
13	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	TOYOTA/TRD 01F	1'37.662	
14	65	大湯都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.450	
15	53	佐藤蓮	TEAM GOH	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.746	
16	12	福住仁嶺	ThreeBond Drago CORSE	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.527	
17	36	G. アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	TOYOTA/TRD 01F	1'37.846	
18	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	TOYOTA/TRD 01F	1'37.920	
19	15	笹原右京	TEAM MUGEN	HONDA/M-TEC HR-417E	1'37.870	
20	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	TOYOTA/TRD 01F	1'37.924	
21	55	三宅淳詞	TEAM GOH	HONDA/M-TEC HR-417E	1'38.108	

\* No.18 は、3グリッド降格 (全日本スーパーフォーミュラ選手権 統一規則第 19 条 5. (妨害行為))